



2020年2月13日

各 位

会 社 名 日 本 アジアグループ株式会社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 山 下 哲 生  
(コード番号 3751 東証第一部)  
問 合 せ 先 取 締 役 瀧 田 隆 記  
TEL (03)4476-8000(代表)

**2020年3月期 第3四半期 決算説明資料に関するお知らせ**

当社はこのたび、「2020年3月期 第3四半期 決算説明資料」を公開いたしましたので、別紙の通りお知らせいたします。

(別紙)

開示資料

『2020年3月期 第3四半期 決算説明資料』

以上



# 2020年3月期 第3四半期 決算説明資料

---

2020年2月13日

日本アジアグループ株式会社

証券コード3751



# 2020年3月期 第3四半期 決算概要

---

# 20/3期 第3Q連結決算 要旨



## Point1

**ザクティを除く  
空間情報事業と太陽光発電売電事業は引き続き堅調で、  
減収ながら営業損失は大幅に改善  
ザクティは大幅減収、経営改革断行中**

## Point2

**グリーン・エネルギー事業拡大に向け不動産を売却、  
収益を特別利益に計上  
当期純利益は黒字化**

(百万円)	19/3期3Q	売上比 (%)	20/3期3Q	売上比 (%)	増減額	増減率 (%)
売上高	72,063	100.0	69,030	100.0	△3,032	△4.2
営業利益	△1,452	△2.0	△126	△0.2	1,325	—
経常利益	△2,872	△4.0	△1,519	△2.2	1,353	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△3,565	△4.9	1,259	1.8	4,824	—

# 20/3期 第3Q 連結決算 要旨



## 売上高

- 主力の国際航業は豊富な受注残を背景に生産が順調、太陽光発電の収入は安定
- ザクティはデジカメ市場の環境厳しく大幅減収（△56億円）、ドラレコ受注急増でフル生産

## 営業利益

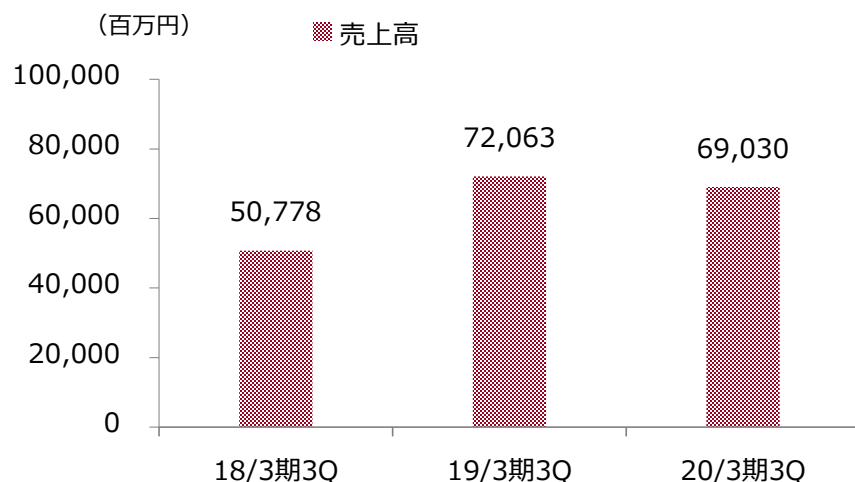
- ザクティ営業損失19億円（前年比約3億円改善）を他事業がカバー、3Q段階で損失はほぼ解消
- グリーン・エネルギー事業は、通期計画（29億円）に対し、3Qで達成率94%

## 特別利益

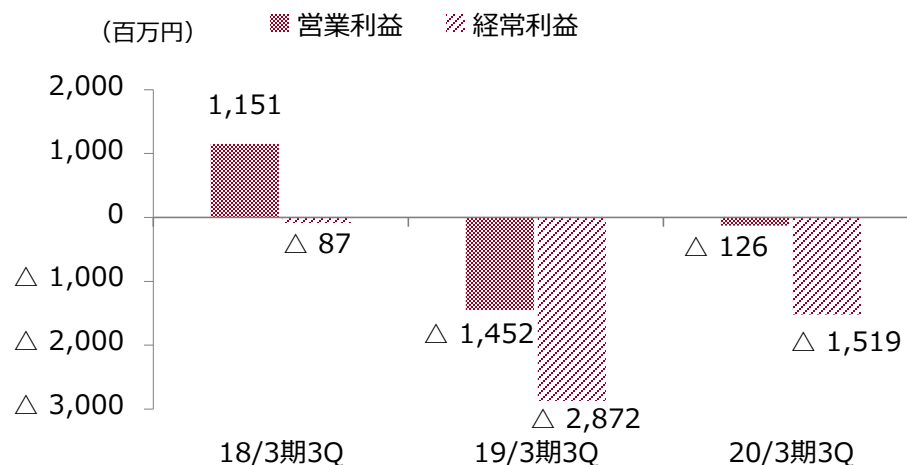
- 再生可能エネルギー事業の拡大・普及に向けてグループ内資産を整理し、JAG国際エナジーが保有する固定資産を売却 ⇒ 特別利益約44億円計上

注) 空間情報事業では、国際航業は3月納期の案件が多く、ザクティは開発売上が期末に集中するため費用が先行し、トータルの利益は第4四半期に集中する傾向にあります。

### 売上高の推移



### 営業利益/経常利益の推移



# 20/3期 第3Q セグメント別要旨



## 空間情報事業

- 国際航業は増収・大幅増益を達成、受注は防災関連が好調、生産は豊富な受注残を背景に順調に推移
- ザクティは大幅減収と厳しい状況続くが、経営改革継続し損失拡大阻止、ドラレコ**フル生産**が貢献

## グリーン・エネルギー事業

- 継続した開発による太陽光発電施設増加、安定した発電量が寄与し台風被害をカバー、増収・増益を達成

## 森林活性化事業

- 森林活性化事業は、KHC減収・減益、坂詰製材所は事業規模拡大中、JAGフォレストは育成過程

## その他

- 海外展開における先行費用発生（営業損失△52百万円）

注）今期より（株）KHCをG・エネルギー事業から森林活性化事業に移行したことにより、前期（19/3期3Q）実績も調整しております。

セグメント	(百万円)	19/3期3Q	20/3期3Q	増減額	増減率 (%)
売上高		72,063	<b>69,030</b>	△3,032	△4.2
営業利益		△1,452	<b>△126</b>	1,325	-
空間情報事業	売上高	50,329	<b>47,156</b>	△3,173	△6.3
	営業利益	△4,272	<b>△3,153</b>	1,119	-
グリーン・エネルギー事業	売上高	10,888	<b>11,731</b>	842	7.7
	営業利益	2,371	<b>2,724</b>	353	14.9
森林活性化事業	売上高	10,792	<b>10,113</b>	△678	△6.3
	営業利益	477	<b>354</b>	△123	△25.9
その他	売上高	53	<b>29</b>	△24	△45.3
	営業利益	△29	<b>△52</b>	△22	-

# 空間情報事業 決算要旨 1

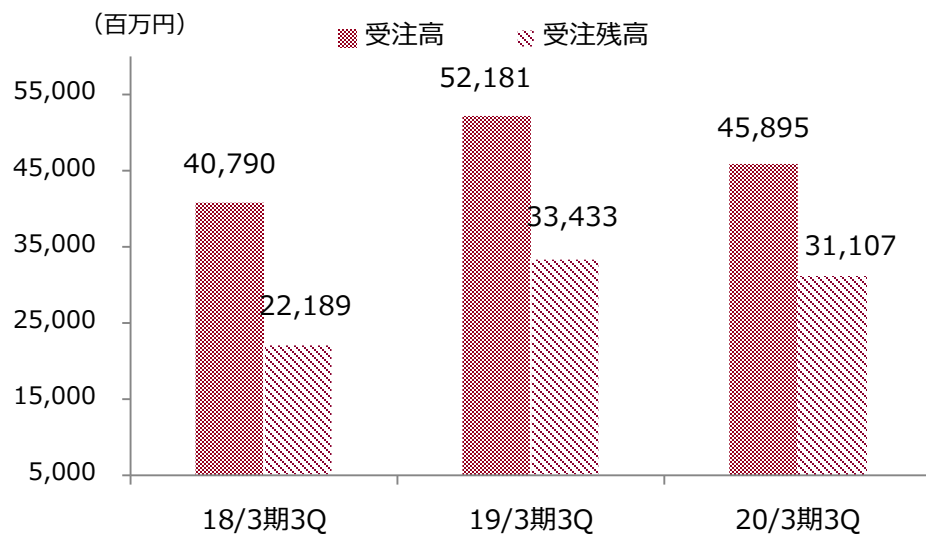


## 空間情報事業

- 受注高は、前期比では大型案件の反動減の影響で減少、受注残高は、前期からの繰越し残が豊富にあり過去最高水準を維持
- 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の執行もあり、防災・災害対応（地すべり、砂防、浸水区域調査等）、航空レーザ測量、地下水浄化業務など幅広い分野で順調
- 国際航業は、期末に向け生産・売上増に注力、増収・増益を達成へ

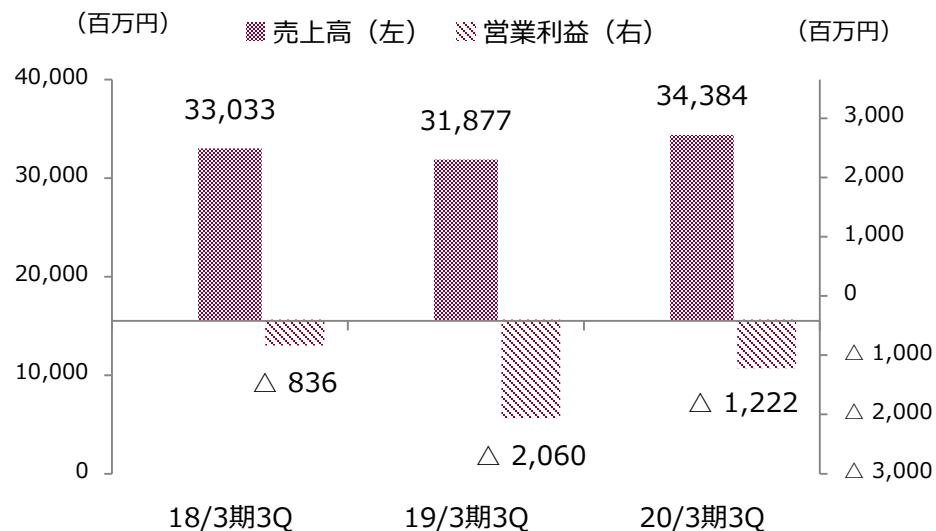
### 空間情報 受注高/受注残高 の推移

(除：ザクティ)



### 空間情報 売上高/営業利益 の推移

(除：ザクティ)



注) ザクティを除いた空間情報事業の受注高ならびに収益を表示しております。

# 空間情報事業 決算要旨 2



## イメージソリューション事業

決算

- デジカメ市場の環境厳しく主力OEM事業は完成品売上高が減少、前期比では大幅減収（△30.8%）
- **ドライブレコーダーの需要爆発により、生産能力を倍増し緊急増産対応中！**
- 脱デジカメ、経営改革断行中、電子ジンバル機能（驚くほどブレない）搭載の自社製品ウェアラブルカメラを発売し拡販に注力

### ドライブレコーダー 大增産体制



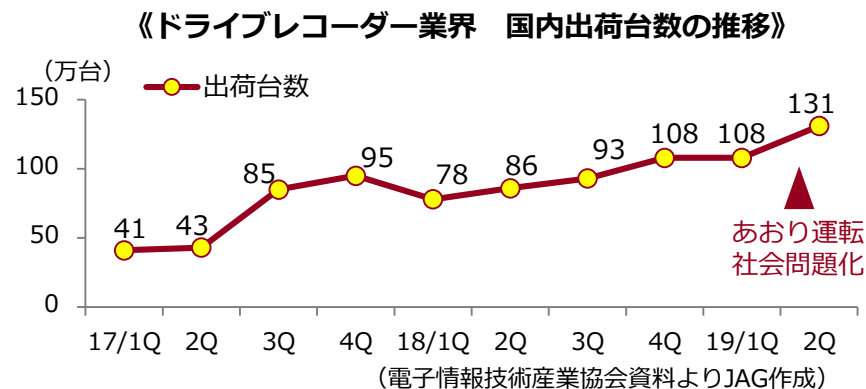
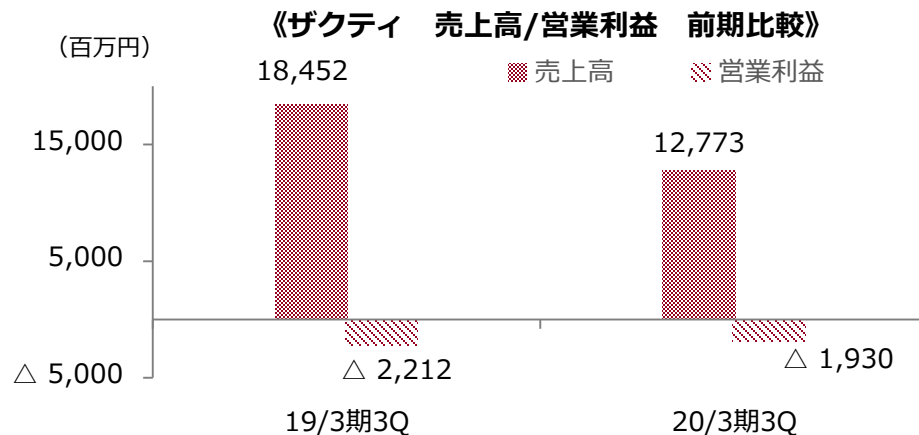
- 全方位型360°撮影可能な最高級ドライブレコーダーをOEM供給
- 2Q以降需要は大幅に増加、下期より増産効果、利益貢献

### 業務用ウェアラブルカメラ発売

**独自開発の強力画揺れ補正機能（エクスタビライザ）搭載で、安定したモニタリング環境を提供**



W33mm : H66mm : D89mm





# グリーン・エネルギー事業 決算要旨

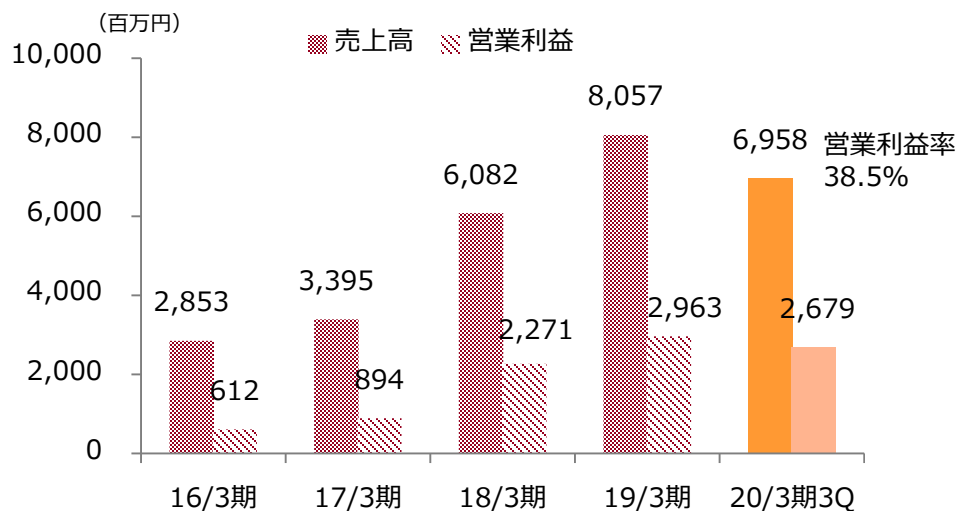


## 売電事業

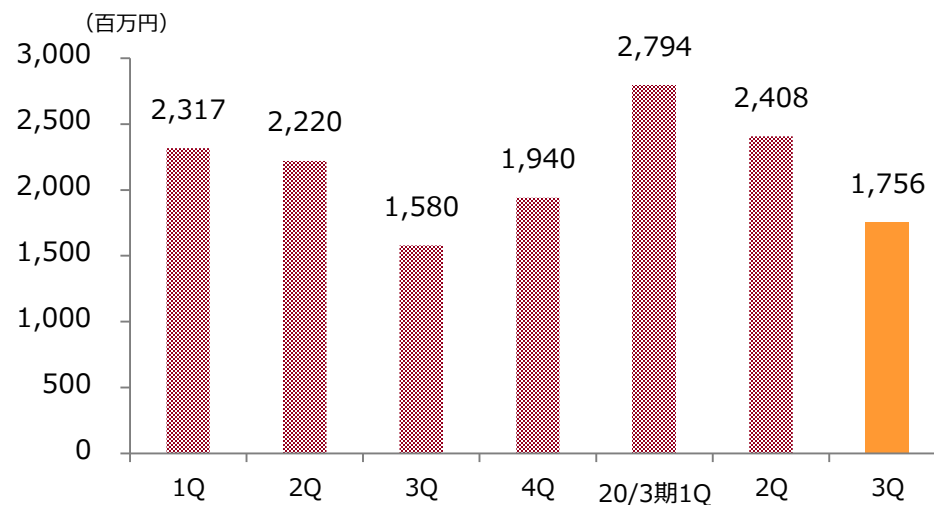
太陽光発電所開発は 全国**93箇所**、合計稼働出力**218MW** を超える規模に成長

1Q		2Q		3Q	
SW	MW	SW	MW	SW	MW
茨城・上郷	1.4	豊 頃	1.6	茨城・野堀	2.7
山 口	2.6			三重・菰野	4.6
群馬・甘楽	2.3			福 岡	1.6
				宮城・岩沼	2.8
				更 別	1.4
				根 室	3.0

## 売電事業 売上高、営業利益の推移



## 売電事業 四半期別売上高の推移



# 森林活性化事業 決算要旨



## 森林活性化事業

### JAG フォレスト

- 収益化に向け三好森林での林業生産を継続中
- 森林不動産サイト「森林.net」で、厳選物件掲載開始

### 坂詰 製材所

- 加工能力増強し、プレカット、建築ともに受注は堅調、業績も好調維持

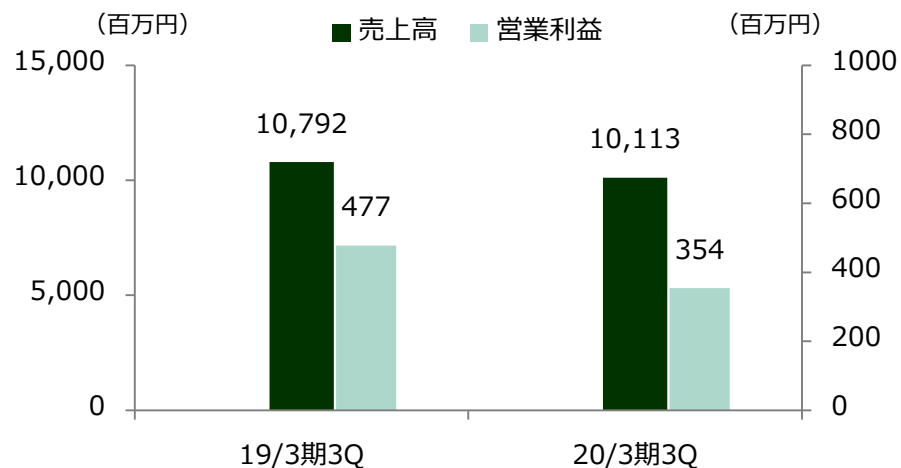
### KHC

- 受注環境はやや厳しいものの、エリア拡大、原価率改善、販管費削減に注力

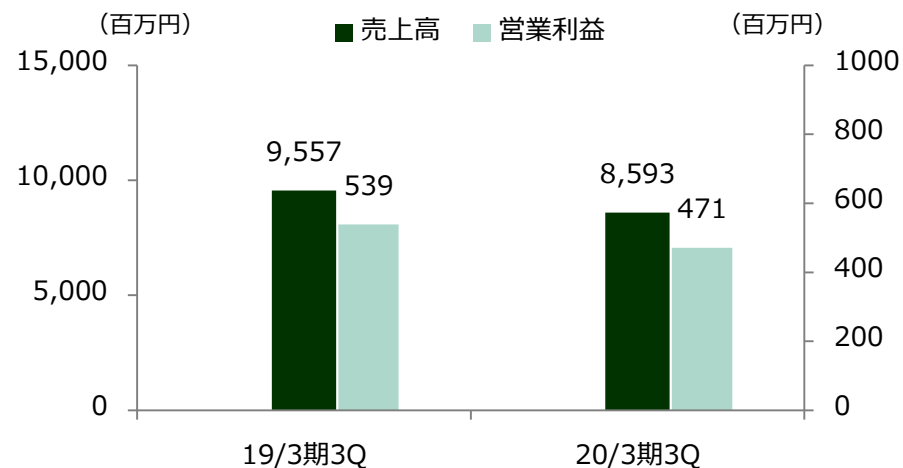
### 木村 産業

- 10月より連結化、売上高、営業利益ともに順調、計画通りに推移

### 森林活性化事業の業績前年比較



### KHCの業績前年比較



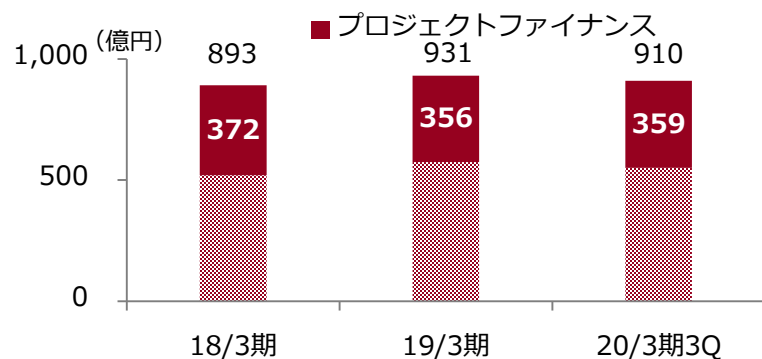
注) 今期より(株)KHCが森林活性化事業に移行しており、19/3期3Q実績も同様に調整しております。

# B/S 主な増減要因分析

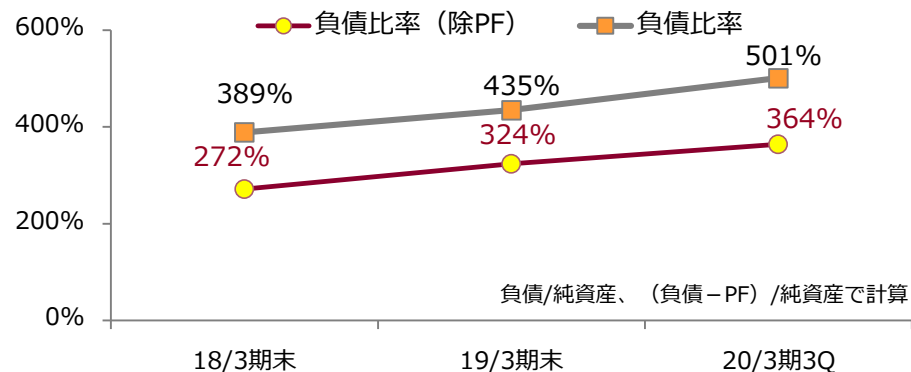


(百万円)	19/3期	20/3期3Q	増減	主なコメント
流動資産	74,199	70,028	△4,170	
現・預金	26,071	25,997	△73	
受取手形・売掛金	33,752	25,988	△7,763	期末は高水準、期中回収進む
固定資産	96,034	85,472	△10,562	
有形固定資産	74,118	66,192	△7,925	不動産売却
無形固定資産	4,126	4,161	35	
投資その他	17,790	15,118	△2,671	投資有価評価減
資産合計	172,344	156,971	△15,373	
流動負債	53,211	43,561	△9,649	短期借入金返済、未払い金決済
固定負債	86,936	87,304	368	プロジェクトファイナンス増
(有利子負債)	93,192	91,018	△2,173	内プロジェクトファイナンス359億円
純資産	32,196	26,104	△6,091	利益剰余金減、投資有価評価減
負債・純資産合計	172,344	156,971	△15,373	

有利子負債、プロジェクトファイナンスの推移



プロジェクトファイナンスを除く負債比率の推移



# トピック1 日本アジアグループと国連グローバル・コンパクト



日本アジアグループ取締役呉文繡は、  
国際航業の会長として国連グローバル・コンパクトに貢献しています。

(呉文繡 UN Global Compact Board member、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事)

2019年11月23日

国連グローバル・コンパクトが発刊した“Navigating the Future of Business and Human Rights: Good Practice Examples”（優良事例集）に、  
国際航業会長 呉文繡のコメントが掲載されました。

事例集は11月25日から27日にスイス・ジュネーブで開催されたThe UN Forum on Business and Human Rights 2019の会議で配布されました。

## 2019年9月

国際航業会長 呉文繡が「国連グローバル・コンパクト・リーダーズウィーク2019」の会議（Private Sector Forum、CEO Roundtable、グローバル・コンパクト理事会等）に出席。

## 2019年9月

国連グローバル・コンパクトによる3年毎の調査報告書Global Compact CEO Study 2019に国際航業会長の呉文繡が協力。

## 2019年8月

国際航業会長の呉文繡が、第7回アフリカ開発会議（TICAD7）の公式サイドイベント（国連グローバル・コンパクト主催、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン共催）において、ビジネスを通じたアフリカ地域のSDGs達成の取り組みについて発表。

## コラム



国際航業は「女性の職場生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」に基づき、2019年11月厚生労働大臣（都道府県労働局長へ委任）から「えるぼし」企業に認定されました。



## Certeza社（比）との協業スタート



《Certeza社》

- 航空測量のフィリピン国内最大手
- 測量機器、データ、ソフトウェアも販売
- 従業員数=約400名（連）、約200名（単）

国際航業は、Certeza Infosys Corporation（本社：フィリピン）と、地理空間情報、防災・減災、インフラアセットマネジメント分野における協業に関する覚書を締結。

大規模なインフラ整備計画が進められるフィリピンにおいて、国際航業が得意とする空間情報、防災・減災、インフラ・アセット・マネジメント等における技術、知見、実績を活かし、事業拡大を目指す。

（準天頂衛星システム）

## 「2019年度 みちびきを利用した実証実験」に採用決定

国際航業は、内閣府と準天頂衛星システム（株）主催の公募案件に応募し、東南アジアでの高精度測位補正技術（MADOCA）の適用実証実験が採用される。

本プロジェクトでは、「みちびき」の利用が期待される新たなサービスや技術の実用化を目指す。



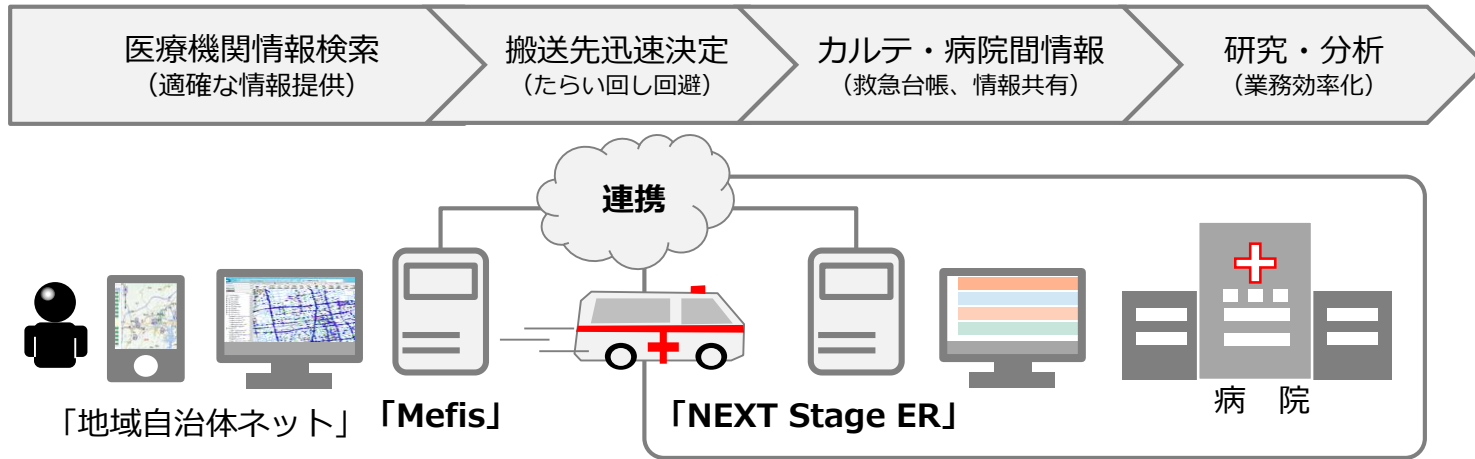
（出典：内閣府 みちびきウェブサイト<http://qzss.go.jp>）

# トピック3 国際航業の「G空間×ICT」



## 救急医療情報システム「Mefis」(メイフィス)、 救急外来情報システム「NEXT Stage ER」(TXP Medical) と連携

### 病院内・外のデータ連携プロジェクト



メイフィス (Mefis ⇒ Medical facilities information systemの略) は、患者様が  
必要な検査や診察等、最適な措置のできる医療機関へ、いち早く辿りつけるこ  
とを支援する"医療施設情報システム"です。



MCPaward2012  
グランプリ/総務大臣賞  
受賞

モバイルプロジェクト  
award2012  
MCF社会貢献賞 受賞

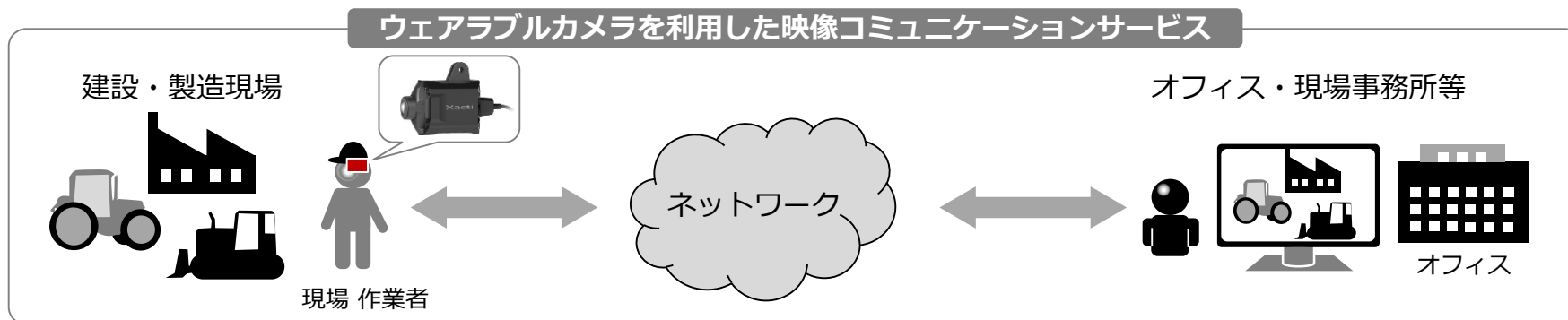
MCPaward2012  
グランプリ/総務大臣賞  
受賞

# トピック4 Xacti ウェアラブルカメラ市場



## 製造、建設業界向け 映像コミュニケーションサービス

田辺工業、NTT東日本が連携した製造・建設業界向けのICTソリューションプロジェクトに、パートナーとして参画



### Xacti ウェアラブルカメラ



タブレット/スマートフォン(Android)、  
PCと接続しリアルタイム映像出力が可能

#### 装着型の防水・防塵小型軽量カメラ

- 強力な画像揺れ補正機能を搭載し、揺れを抑えた映像出力
- セキュリティカメラ用イメージセンサを搭載し、暗所視認性を向上
- アタッチメントにより自分の目線に合わせて撮影可能



# 2020年3月期 通期計画/事業戦略

---



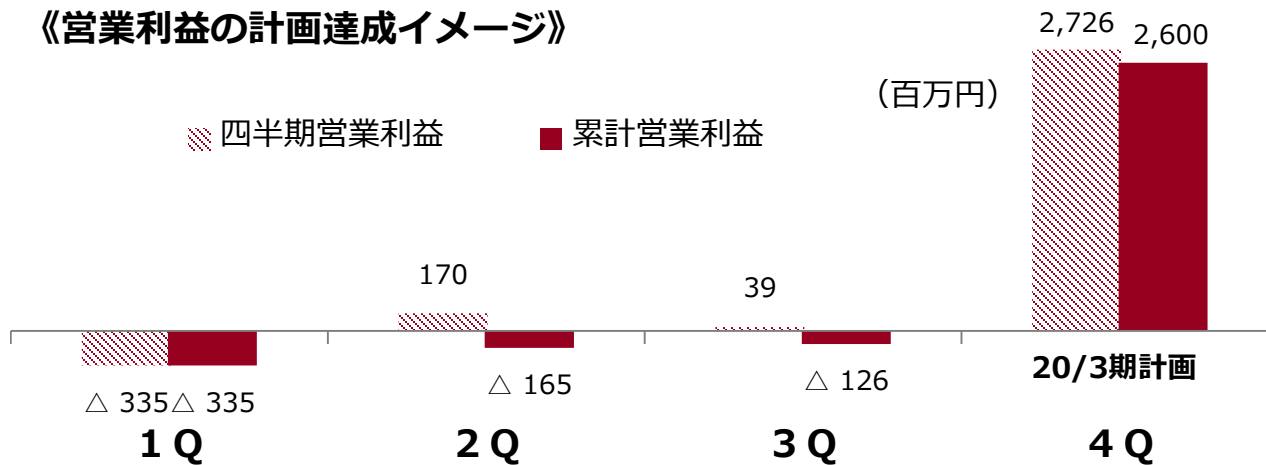
# 20/3期 通期事業環境予測



## 《営業利益の計画達成イメージ》

▨ 四半期営業利益    ■ 累計営業利益

(百万円)



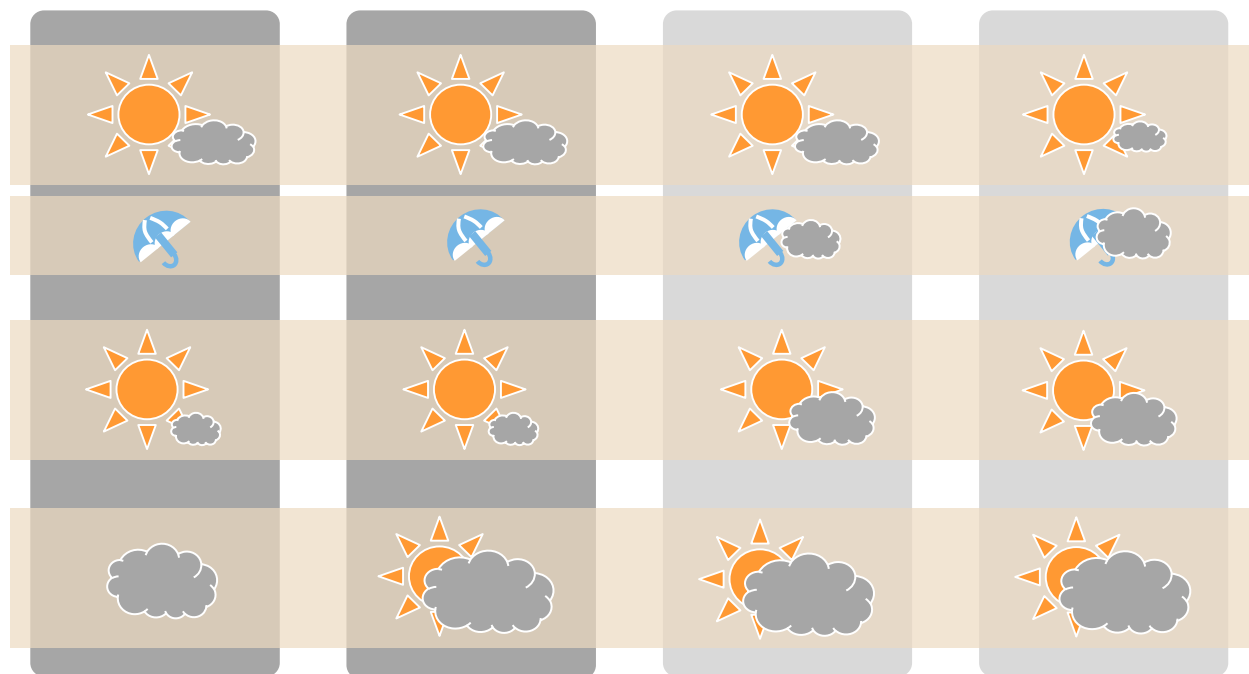
日本アジアグループ

空間情報事業

イメージソリューション事業

グリーンエネルギー事業

森林活性化事業



# 20/3期 通期事業計画



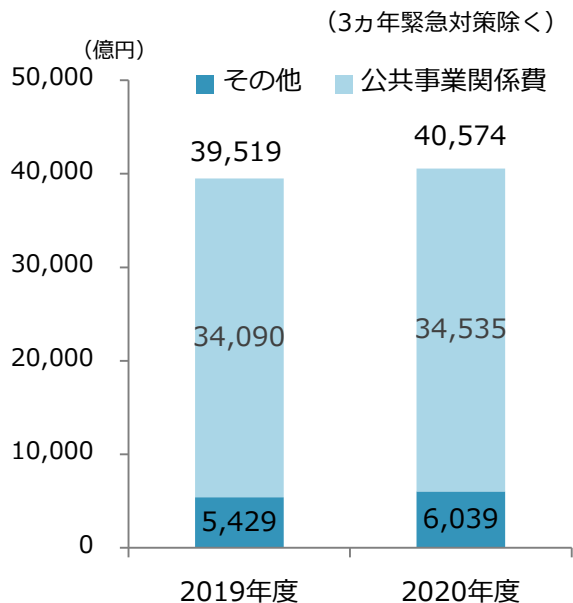
セグメント	(百万円)	19/3期	売上比 (%)	20/3期計画	売上比 (%)	前年比 (%)
売上高		102,025	100.0	109,000	100.0	6.8
営業利益		1,733	1.7	<b>2,600</b>	2.4	50.0
空間情報事業	売上高	72,322	70.9	74,000	67.9	2.3
	営業利益	△1,865	△2.6	△1,100	△1.0	-
グリーン・エネルギー事業	売上高	28,070	27.5	16,270	14.9	△42.0
	営業利益	3,701	13.2	2,900	2.7	△21.6
森林活性化事業	売上高			18,700	17.2	-
	営業利益			910	0.8	-
その他	売上高	1,632	1.6	30	0.0	△98.2
	営業利益	△102	△6.3	△110	△0.1	-
経常利益		△193	△0.2	<b>300</b>	0.3	-
親会社に帰属する当期純利益		△2,491	△2.4	<b>280</b>	0.3	-
E P S (一株当り利益 (円))		-		10.4		

注1) 19/3期のセグメントは、その他（森林活性化事業）として記載しております。

注2) (株) KHCIは、19/3期はグリーン・エネルギー事業、20/3期からは森林活性化事業にセグメント移動しております。

## 2020年度 国土強靱化関係予算案

### 国土強靱化関係 当初予算



(内閣官房 国土強靱化推進室資料よりJAG作成)

### コラム

#### 《SDGs/気候変動戦略研究所》

気候変動対策とグループの事業との連動性を浸透させ、さらに事業創造を支援する目的で、2019年4月、国際航業内に「SDGs/気候変動戦略研究所」を新設しています。

### 《予算案の基本方針》

- 「国土強靱化基本計画」に基づき、(中略)・・・府省庁横断的な国土強靱化の取組みを重点的・効果的に推進する
- 合わせて、「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」を集中的に実施する(3カ年緊急対策分11,408億円、うち公共事業関係費7,902億円)

(内閣官房 国土強靱化推進室資料より抜粋)

## 国際航業

「情報をつなげる力で、人・社会・地球の未来をデザインする」

～ 多彩な人材により“はかる”を超えるテクノロジーカンパニー～

### 《プロジェクト》

- ◆ 国土強靱化事業対応プロジェクト
- ◆ ドローン事業推進プロジェクト

### 《主な施策》

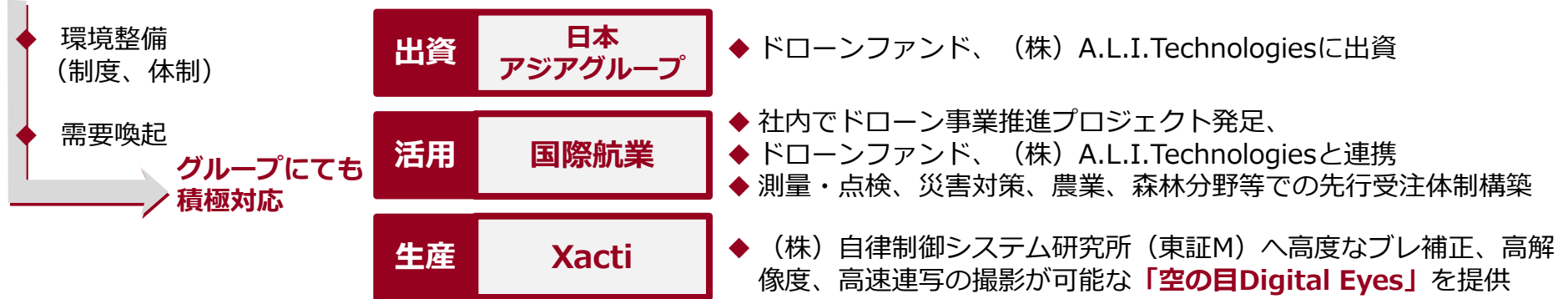
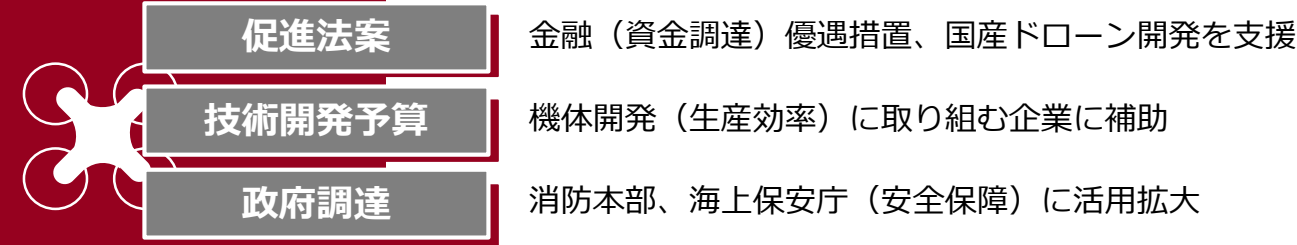
- ◆ レーザ案件の受注生産体制の構築
- ◆ 「計測～調査・解析～計画・設計」の一連の対応力増強
- ◆ 中央官庁の先端技術テーマへの積極参加による先端技術力の強化
- ◆ 自治体市場に向けた空間サービス系商品の生産力・販売力の強化と関連事業への拡大
- ◆ 「土壌汚染の可視化サービス開発」推進

# Xacti ; グループ戦略を担う自社開発カメラ事業に変革

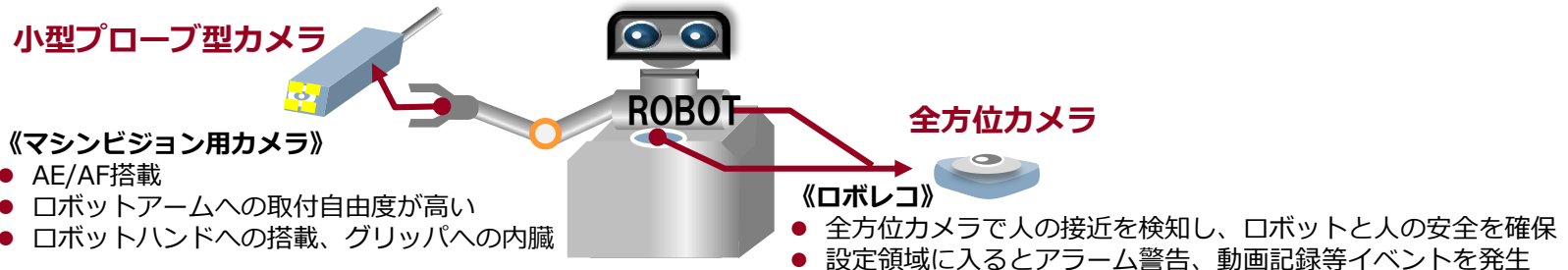


- OEM/ODMビジネス→安心、安全そして快適な“グリーン・コミュニティ創造”に係る独自商品開発を急ぐ
- 取り分け、インフラ維持管理分野、工事工程管理、ドローン搭載カメラの開発、マシンビジョンの開発は急務

## 政府支援 → 2020/2月：国産ドローン+カメラ支援策が追い風に？！



## Xacti ロボット、マシンビジョン用カメラに進出



## 再生可能エネルギーに特化した電源開発を日本全国で展開

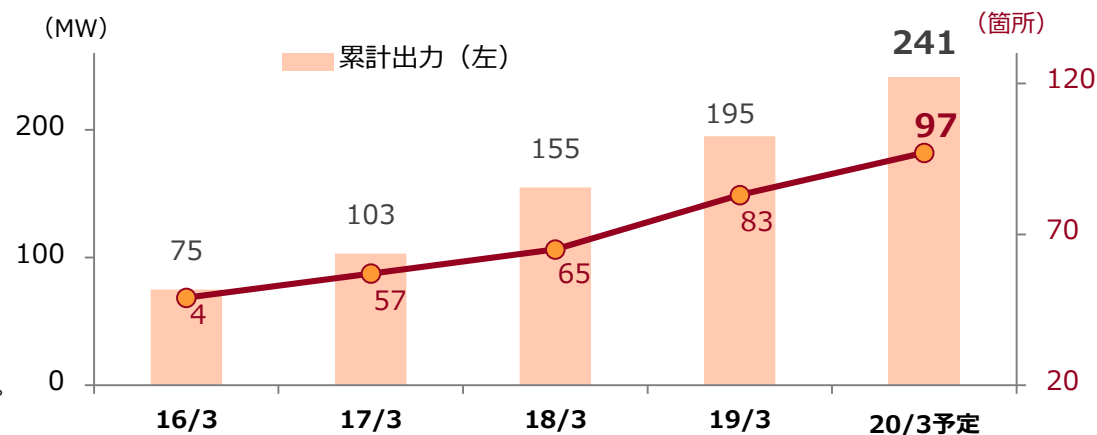
JAG国際エナジー	エネルギー関連事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電</li> <li>風力発電</li> <li>バイオマス発電</li> <li>小水力発電</li> <li>地熱発電</li> <li>太陽光発電所の運営管理</li> <li>太陽光発電所建設事業</li> <li>アセット/ファンドマネジメント</li> </ul>
	地域創生関連事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域エネルギー事業</li> <li>電力小売り事業</li> <li>省エネソリューション事業</li> </ul>

## 今後の再生可能エネルギー開発計画

工事中と確保案件	太陽光着工・工事中案件	
再エネ (MW)	SW	MW
太陽光 (48.9)	多治見	16.3
風力 (6.9)	安心院	2.4
バイオマス (75.0)	吉見1.2.3	2.3
小水力 (0.1)	伊予	1.0
	名取2	0.6
	合計	22.6

(20/1月現在)

再エネ累計稼働出力/施設件数 の推移



注1) 開発計画 (予定) は様々な事情により竣工時期が前後する場合があります。  
 注2) 開発案件に加え、既存稼働施設 (セカンダリ案件) の買取も検討しています。

## ポスト「FIT」への対応

電源の多様化/国内・外での拡大	+	地域創生関連事業の拡大
-----------------	---	-------------

# 森林活性化に向けた取組み





## 「Save the Earth, Make Communities Green」

本資料に記載されている将来に関する記述および数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、将来の実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

---

**お問合せ先： 日本アジアグループ株式会社**

**コーポレート・コミュニケーション部**

**TEL : 03-4476-8007**

**FAX : 03-3217-1810**

**E-mail : [ir@japanasiagroup.jp](mailto:ir@japanasiagroup.jp)**

**URL : <https://www.japanasiagroup.jp/>**